

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科

大阪 ICT 活用フォーラム

—授業における ICT 活用の可能性を考えよう—



日時：12月23日 13:00～17:00（受付開始 12:30）

会場：大阪教育大学天王寺キャンパス西館ホール等

(<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~nibujm/shisetsu.html>)

申し込み：<http://goo.gl/forms/cxHQzyTceU>（先着 150 名）

申し込み用サイト QR コード→



プログラム：

開会の辞

越桐國雄（大阪教育大学理事）

趣旨説明

木原俊行（大阪教育大学大学院教授）

1. 基調講演「教育の情報化の最前線」

磯 寿生（文部科学省生涯学習政策局情報教育課長）

我が国の教育の情報化が目指すもの、教育改革の方向性と教育の情報化、学校における教育の情報化の推進、さらには地方創生と教育の情報化などについて語っていただきます。

2. 大阪内外の ICT 活用のすぐれた事例報告

①大阪市立阿倍野小学校（別所英文教諭）

②大阪市立旭陽中学校（日下貴雅教諭）

③大阪府立東百舌鳥高等学校（勝田浩次教諭）

④三重県松阪市立三雲中学校（楠本誠教諭）

コメンテーター：堀田博史（園田学園女子大学教授）

司会：木原俊行（大阪教育大学大学院教授）

大阪府教育委員会の「学校 ICT 活用事業」のモデル校として活躍している、大阪市立阿倍野小学校と同旭陽中学校に、タブレット端末や電子黒板を利用した授業実践事例に関して、ご報告いただきます。例えば、大阪市立阿倍野小学校では、子どもたちが、「問題解決」「協働的な学び」を進める際に、効果的なツールとして ICT を活用しています。また、旭陽中学校では、1 年目は ICT 環境の整備や情報モラル教育のカリキュラム開発、2 年目はタブレット端末を使った家庭学習や協同学習の実施、3 年目は全教科における協同学習の取り組みといった、ICT 活用の進展が実現しています。

大阪府立東百舌鳥高等学校では、全普通教室に電子黒板機能付きプロジェクタが導入され、授業内での ICT 活用が急速にすすんでいます。この導入は、「目的としての ICT 活用」から、「手段としての ICT 活用」への転換に大いに貢献しているということです。本発表では、同校の ICT 活用の事例、そこから見てきた課題と今後の展開について発表して頂く予定です。

三重県松阪市立三雲中学校では、2011 年度より、生徒 1 人 1 台のタブレットを活用した協働学習を行っています。これまでの成果と課題を踏まえた「生徒がより主体的・協働的に学ぶ授業デザイン」について実践報告が行われます。

なお、事例報告後、それらの実践報告の特徴等について、堀田先生に整理していただきます。

3. パネルディスカッション「ICT 活用を地域全体に広げていくために」

コーディネータ：寺嶋浩介（大阪教育大学大学院准教授）

パネリスト：中川一史（放送大学教授）

山本朋弘（鹿児島大学講師）

大澤啓司（大阪市教育センター首席指導主事）

全国各地で、児童・生徒 1 人 1 台のタブレット型端末導入の推進をはじめとして、特定のモデル校において実証研究が取り組まれ、評価されるようになってきました。その成果を受け、今後は自治体レベルで全体的にそれらの ICT 機器とその活用が導入されていくことが期待されます。本パネルディスカッションでは、すでに地域レベルで取り組まれている ICT 活用の取り組みについて登壇者に話題提供していただき、その成立要件や普及への方策について、共通点を見出していきます。

閉会の辞

森田英嗣（大阪教育大学大学院教授）

参加費：無料

後援（申請中）：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会

問い合わせ先：大阪教育大学大学院連合教職実践研究科・

寺嶋浩介（kostera@cc.osaka-kyoiku.ac.jp）